

# オワイヤ Foyer

New Union of Architects & Engineers

Tokyo **645**

**2026.1**



2026年1月1日（毎月発行）定価200円 645号通巻第645号第56巻第1号発行/新建築家技術者集団東京支部  
発行人／杉山昇 〒162-080 東京都新宿区山吹町361番地 誠志堂ビル3階 tel.03-3260-9810 fax.03-3260-9811  
ホームページ <https://nu-ae.com/tokyo/> E-mail shinken-tokyo@group.email.ne.jp

- 03 年賀広告 & 新建事務所で「新春 顔合わせ」
- 06 新年にあたって代表幹事よりメッセージ 千代崎・丸谷
- 07 神宮外苑口頭弁論裁判報告会 山下千佳
- 09 第57回「地球温暖化について考える」 渡辺政利
- 12 アジアンニュース No.36 TN
- 14 「ラーゲリーより愛を込めて」映画と山本厚生氏のお話の案内

## 今月の表紙 提供：丸谷博男

1月2日、この太陽光線が、身体中を巡っています。家の中も清めていただいています。真横からの「太陽光線は、有難い」の一言。そしてあつたか～い！伊豆大島の三原山から立ち登りました。

## Event Information

◎は新建主催行事 ◆は会員及び交流団体の行事

## 東京支部

- ◎01/16 金 16:00 東京問題懇談会 @新建事務所
- ◎01/23 金 14:00 第8回常任幹事会 @新建事務所
- ◎01/31 土 18:30 「アルヴァー・アアルトとモダン」 講師：水島信氏  
@渋谷区文化総合センター大和田 2F 学習室 1  
参加費：2000円 新建会員・学生：1000円
- ◎02/03 火 18:30 第3回幹事会（拡大） @新建事務所
- ◎02/28 土 13:30 東京支部総会+「のこぎり屋根に魅せられて」スライド&トーク @新建事務所

## 全国

- ◎01/25 日 全国常任幹事会

## 会員及び交流団体 詳細は（ ）に記載された会員へお問い合わせください。

- ◆01/17 土 imaginepeace 音楽のつどい @板橋区立グリーンホール 1階
- ◆02/13 金 18:30 能登とつながる夜 被災地から聞く復興の現在地 @けんせつプラザ東京 5階会議室
- ◆02/14 土 平和を願う無料映画会「ラーゲリーより愛を込めて」上映と山本厚生さんのお話  
@杉並区勤労福祉会館ホール

**2月28日（土）** 会員の方は総会 13:30 からご出席ください。開場 13:00

会場：新建東京支部 Foyer（新宿区山吹町 361 番地 誠志堂ビル 3階）

13:30～16:30 総会（会員のみ）

16:40～17:40 吉田敬子さんスライド&トーク「のこぎり屋根に魅せられて」（会員でない方も参加可、要申込み）

17:40～20:00 引き続く懇親会（吉田さんへの質問などは懇談会で）

<https://nu-ae.com/tokyo/260228sibusoukai/>



各地でのイベントや行事情報、ホワイエの原稿も隨時募集しています。

下記アドレスまで原稿をお寄せください！ [oyer@shinken-tokyo.orgp.emai.ne.jp](mailto:oyer@shinken-tokyo.orgp.emai.ne.jp)

新年おめでとうございます

新建築家技術者集団東京支部



迎春

本年もどうぞ  
よろしくお願ひ申し上げます  
二〇二六年 元旦

しょう  
**象 地域設計**

一級建築士事務所  
株式会社

〒124-0001 東京都葛飾区小菅4-22-15 TEL:03(3601)6841  
E-mail:zo-3@jade.dti.ne.jp URL:www.zo-3.info

佐藤 未来  
江國 智洋

長谷川 陽  
佐伯 和彦

木村美千代  
澤田 大樹

辻 彩香  
栗林 豊

武市望奈代  
松富 壽嗣

安達 一八  
高橋 育



謹賀新年

平和憲法を  
世界に

武力でなく  
対話を

高田桂子



ことしは 住宅問題を久しぶりに  
勉強しなおしたいと思っています。

仕事でも 魅力的な住宅の確保は  
難しくなっていると感じていますが…

2026年 正月

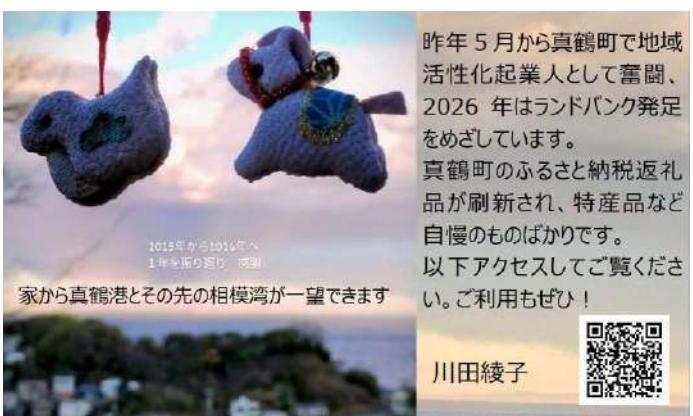
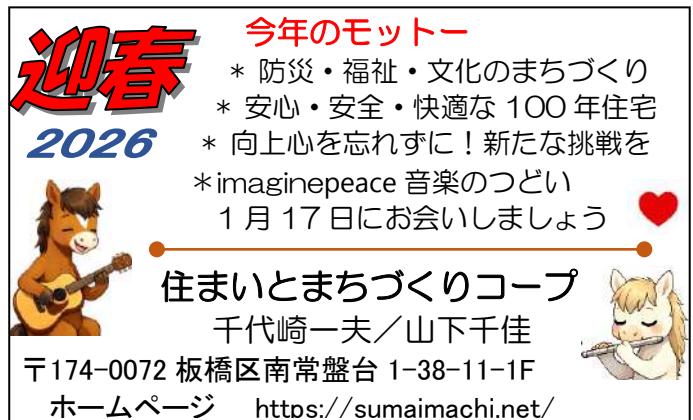
(東京問題研究会)石原重治

ことしもよろしくおねがいします

2026.1.1



本年もよろしくお願ひします。TN



2026

本年もよろしくお願ひします。  
皆様の活動をホワイエまで  
お寄せください！

松木 康高



Hi-Project Architects Office Ltd.

## 新春 顔合わせ

2月14日に杉並区で開催される「平和を願う無料映画会『ラーゲリより愛を込めて』上映と山本厚さんのお話」の打ち合わせを兼ねて、新年の顔合わせをしました。

酒井行夫さん（神奈川支部）に山本さん宅と新建事務所の送迎をしてもらい、広くなった事務所も見てもらうことができました。

はじめに、厚生さんとヒカルさんに、2023年2月11日に東京支部主催の板橋でおこなった「『ラーゲリより愛を込めて』父・山本幡男氏の強い信念を受け継いで」の際に写した映像に沿ってお話をしてもらい、その後、当日に話す内容をリハーサルも含めて録画をしました。

打ち合わせ後は、東京支部代表幹事の千代崎一夫さんも交えて、新建設立当初の話、ヒカルさんが支部の事務局長だった時代やその時の新建事務所こと、災害支援のことなどを語り合いました。

今回、大阪支部の山口達也さんの協力で、新建スタジオで動画の撮影も無事にできました。

岡田昭人さん、宇賀久味子さん、杉山昇さんもいっしょに、みんなでケーキと珈琲で、新春の楽しいひとときを過ごしました。

By. 山下千佳



階段の段差解消と手すり設置を検討中。室内で使っている踏み台を仮設置。



## 新年にあたって 東京支部代表幹事よりメッセージ

新年あけましておめでとうございます。

昨年は東京支部として、さまざまな活動に取り組んできました。少し振り返るだけでも、多くのテーマが挙げられます。

再開発、災害、原発、住宅問題、環境問題、既存建物の保存運動、里山、マンション、文化活動、地下神殿見学、中野プロードウェイ見学、福祉施設、耐震補強、相談活動などです。

全国のセミナー等においても、支部として成功に向け努力を重ねてきました。それぞれのテーマは、実際の仕事の中の課題であると同時に、社会問題でもあります。課題が相互に関連していることを強く感じています。建築への要望や悩み、困りごとに対し、解決に取り組んできた一年でもあったと思います。

平和という問題においても、建築技術者が仕事としてつくった建物が、爆撃等により破壊され、多くの命が奪われています。技術者の立場からも、より積極的に発言していきたいと考えています。

私たちの事務所では、まちづくりや今年、没後 100 年にあたるガウディの建築を学ぶため、昨年秋にマドリードとバルセロナに行きました。国際的に先進的なまちづくりとして、岸本さとこ杉並区長や齋藤幸平東大准教授から紹介されていたこともあり、楽しみながら学ぶことができました。

平和を願う取り組みとして、「イマジンピース音楽のつどい」を事務所では 2018 年から開催しています。今年は 1 月 17 日（土）に開催します。演奏する方も、聴く方も、ぜひご参加ください。新建の活動の中でも、「新建バンド」に挑戦してみたいです。

国際的な運動や全国的な実践例を学びながら、東京支部および全国としても、『建築とまちづくり』誌の読者を増やし、仲間を広げ、さまざまな課題により大きく取り組んでいきましょう。

千代崎一夫



時が動き、幸い新年を迎えることができました。いっけん平安に思える昨日今日ですが、あらゆる事象が不穏に思える現在です。強力な力も、弱々しい声も、響くことの無いもどかしさばかりが募る時代です。このような時こそ、迷うことのない信念と学びが必要とされるのではありますか。建築とまちづくりも、発展の芽が見えることなくむしろ後退している感が強くなり世の中の大流は株価に象徴される「経済」にあるように思います。

新建は何処に在るべきか。

その前に、ではなくそれと同時に、自分は何処に在るべきか。そのことの大切さを、ひしひしと感じています。今まで以上に、新建の原点で在る「社会派」、その立場にしかできないことがあります。それは、建築界でも、経済においても、政治においても、まちづくりにおいても、デザインにおいても、重要なこととして在るのです。

議論をしましょう。黙っているのが、己自身を退化する原風景です。まずは己との戦いです。それが運動の原点ではないでしょうか。己との闘いとは、実践しながらの闘いで在ることは、新建運動の歴史が示しています。このことへの理解も含めて、皆様と己に再確認の自省の時間をつくりましょう。

丸谷博男

## 神宮外苑再開発認可取消訴訟 第8回口頭弁論 報告と対談

山下千佳

神宮外苑の歴史的景観と緑の環境保全を求める声が高まる中で、「神宮外苑市街地再開発」に対し2023年2月17日小池東京都知事が施行認可を行いました。この事態を受け、地域住民を含む市民、各界専門家などが、東京都に対し認可取消の訴えを東京地方裁判所へ提出しました。

昨年12月5日、神宮外苑再開発認可取り消し訴訟第8回口頭弁論がおこなわれ、16時から衆議院第二議員会館の会議室で報告会が開催されました。報告会では原告団・代理人による裁判の進行状況と意見交換に続き、当訴訟の原告でもある経済思想家の斎藤幸平さんと原告団長ロッシェル・カップさんの対談がありました。



対談で斎藤さんは、神宮外苑の空間を「コモン（社会の共有財産）」として捉えるべきだという視点を強調しました。これは、少数の企業や政府の判断で事業が推進されるのではなく、市民の共有財として尊重・保全されるべきものだという考え方です。

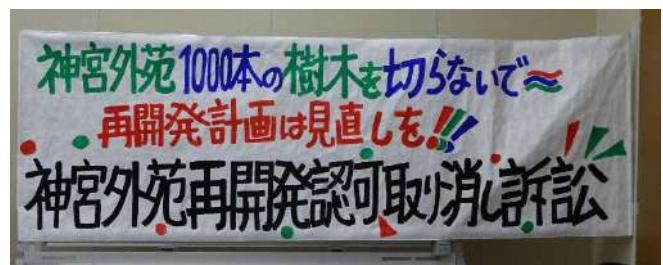
「再開発は世界の流れだ」と言われることがありますが、現在の世界の都市政策の潮流は、神宮外苑で進められている計画とはむしろ逆の方向にあります。たとえばスペインのバルセロナ市では、気候非常事態宣言を出し、都市のあり方そのものを転換する政策が進められています。自動車中心だった都市空間を、人と緑を中心とした公共空間へと変え、スーパー・ブロックのような取り組みによって、道路だった場所を人が集い、子どもが遊び、樹木が育つ空間へと再編しています。そこでは、経済成長のために緑を削るという従来の発想自体が見直されています。緑や公共空間を増やすことが、人々の健康や生活の質を高め、都市の持続可能性を支えるという考え方方が共有されています。

同様の動きはパリなど他の都市でも見られます。かつて自動車が支配していた都市の中心部を、人や自転車、公共性のための空間へと取り戻す試みが進められています。これらは単なる都市デザインの変更ではなく、都市の中心は資本のための場所ではなく、市民の共有財であるという認識に基づいています。

この視点から見ると、神宮外苑は単なる再開発用地ではありません。長い時間をかけて育まれてきた歴史や自然、生態系を含んだコモン、すなわち社会の共有財として捉える必要があります。この問題は原告と被告だけの対立ではなく、私たち一人ひとりがこの空間の未来に関わる共事者として向き合うべき課題だと考えています。

バルセロナやパリの事例は、別の都市のあり方、別の選択肢が可能であることを示しています。神宮外苑の問題は、都市の将来像だけでなく、私たちがどのような社会を選び取るのかを問う、象徴的なテーマであると思います。

また、神宮外苑の問題で言えば、ここを再開発する際に、『土地は事業者のものだ』とか『権利者だけの判断で良い』という議論が前提になっています。土地の所有がすべて私的財産であるという発想は、資本主義下では当然のように語られてきました。しかし私はそれを根本から問い合わせる必要があると思っています。たとえばドイツでは、土地の使い方や所有に対して日本とは違う伝統的なあり方があるのです。ドイツでは、特に都市計画や農地の管理において、単に個人の私的利害だけで土地が扱われるの



ではなく、その土地を共有財（コモンズ）として扱う仕組みが歴史的に根付いています。そこでは、地価の高騰や投機だけで土地が動くのではなく、地域のコミュニティ全体で土地の使われ方を考えるルールが存在します。たとえば、都市計画の局面では、住民の意見が直接的に反映されるシステムがあり、市民投票や協議会を通じて土地利用のあり方が決められることがあるのです。こうしたコンセプトは、土地=単なる私的財産ではなく、生活や自然との関係性の中で共有されるべきものという視点に立っています。これは単なる理想論ではなく、日々の都市運営や住民参加の仕組みの中で実際に機能している具体的な事例です。だからこそ、土地のあり方を『私のもの／あなたのもの』という二分法で終わらせるのではなく、私たち全員で共有する公共的価値のあるものとして再考するべきだという問題提起を私はこの裁判の場でも主張しています。

会場から運動をどのように広めるかという質問に対して、小松理虔（りけん）氏の「共事者（共に事象に関わる人）」という概念を取り上げて、当事者ではないけれども、問題を共有し解決に向けてともに行動する人々を指す考え方です。この視点から 当事者意識が薄い一般市民にも、神宮外苑の未来を共に考え・行動する“共事者”として関わってもらうことが大切と話されました。

対談は、参加者からの意見・質問も活発に交わされ、斎藤さんの考え方への共感・議論が広がっていました。満員の会場で熱気ある交流の場となりました。

## 追記

斎藤幸平さんが執筆した「人新世の『資本論』」に「フィアレス・シティ」の旗を立てたバルセロナ市政の取り組みが紹介されていました。昨年の秋にマドリードとバルセロナに行って、高速道路の地下化、スーパーブロックによる車の規制、緑地の拡大の様子を見てきました。またオーバーツーリズム対策などを実感することができました。一週間程度の旅行で、深く知ることはできませんでしたが、大いに刺激を受けました。斎藤さんにタイムリーにお会いすることができ、神宮外苑の記事を掲載している『建築とまちづくり』誌を渡しました。持参して書籍にサインをもらいました。



### バルセロナ ポブレノウ地区のスーパーブロック (Superilla del Poblenou)

具体的な効果：車両トラフィック 70～90% 減／騒音 10dB 減／NO<sub>2</sub> (二酸化窒素) や PM の大幅減少／住民の満足度向上／屋外滞在者（子ども・高齢者含む）増加



## 第57回 「地球温暖化について考える」

渡辺政利

### 大きな前進が見られなかったCOP30

2015年に採択された、産業革命前からの世界の平均気温上昇を「 $2^{\circ}\text{C}$ より十分低く保ち、 $1.5^{\circ}\text{C}$ に抑える努力を追求する」とする「パリ協定」から10年。昨年の平均気温が産業革命前から比べて $1.55^{\circ}\text{C}$ 高かったと言うデータが存在するなど、その目標達成が危ぶまれている中、今年（2025年）11月10日から22日にかけてブラジル北部の都市ペレンにおいて、国連気候変動枠組み条約第30回締約国会議（COP30）が開催されました。

この会議（COP）は「パリ協定」実行のために国際的な議論を行いそのためのルールの具体化を図る会議として設定されています。温暖化対策を「史上最大の詐欺」と呼ぶトランプ政権・アメリカは「パリ協定」からの離脱表明をおこないCOP30に代表を派遣しないなど気候変動政策への逆行・「振り戻し」の動きの中、気候変動への取り組みを前進させることができたかが大きな注目点であったと言えます。

会議は「化石燃料からの脱却」、その脱却を具体化させる「工程表」の策定とされていましたが、記述は全会一致の合意が得られず記載が断念されたと報道されています。

しかし、主催国であるブラジルのルラ大統領も「『化石燃料なしで生きる方法を考え始める必要がある』ことや、「石油や天然ガスへの依存低減に向けた工程表の作成に入るべき」（東京新聞11月24日）と強く主張し、初期の合意文書案にも盛り込まれ実現への期待を集めた「この考えには80カ国以上が賛同を表明」（同）していたが、「脱化石燃料」へは産油国であるサウジアラビアやロシアなどが強く反発。結局「21日未明の改訂版からは削除され、強力な排出削減を求めるEU連合（EU）や環境団体に落胆と怒りが広がった」（同）とされます。

た」（同）ものです。

「米国は、COP30に対して目立った妨害をしなかったと交渉担当者は振り返る」（同）と記事は指摘しています。しかし、アメリカの不在はさすがに影響が大きく、「途上国の対策に必要な資金をどう確保するかがひとつの焦点」であったが、「最大の支援国だった米国が去った今『肩代わりをしようという国はない』」（同）ことが現実です。

さらに、今回のCOP30では「排出削減の強化に向かう勢いもかけていた。」と同記事は指摘します。各国に対して「国連は2035年の温室効果ガス排出削減目標を9月末までに提出するよう求めていたが、期限を守った国は3割。会期中に提出は進んだものの6割程度だ。（温室効果ガス削減が…渡辺）35年には19年比で60%が必要なのに、12%にしかならないと国連は推計する。このままでは気温上昇は2.6度に及ぶとの予測もある。」（同）と書いています。

COP30では「争点になった『化石燃料からの脱却』や、脱却を具体化させる工程表の策定は、全会一致の合意が得られず記載を断念」。「猛暑や豪雨、海面上昇など気候変動による悪影響が深刻化する中、具体策強化を打ち出せなかった」合意文書は、「パリ協定の目標達成に向け、対策実施の加速を促す内容。気候変動による災害に備えるための『適応資金』を、35年までに少なくとも3倍に増やす努力を各国に求めた。」（同）となったようです。

「日本は先進国だけに負担を求める形での資金支援拡大に異論を唱えたほか、化石燃料を含めた多様なエネルギー源の活用を当面想定する立場から、脱化石燃料の工程表にも賛意を示さなかった」（同）とされます。化石燃料利用の立場を示し温

暖化対策に消極的な日本の立場は国際社会から大きく孤立しているとも言われています。

COP30では温暖化への具体策が示せなかつたわけですが、こうした状況に「コロンビアやオランダなど、工程表の策定を求めてきた国々の閣僚や代表らは危機感を募らせ、非難の声を上げた。同時に、COP30での決定を待たず、化石燃料からの脱却を協議する国際会議を来年4月に独自開催することも発表した」(同)とも同記事にはあり、地球温暖化被害の大きい国々が別の大きな動きを作り出していくことも明らかになりました。

### 「1.5°C」を超えても絶望しないために

雑誌「世界」は複数の執筆者によって「気候再生のために」という連載記事を掲載してきたようですが11月号はその第38回で、江守正多・東京大学未来ビジョン研究センター教授が「今回が本連載で筆者が担当する最後の回です」と断りながら「『1.5°C』を超えても絶望しないために」という文章を掲載しています。「目前に迫る世界平均気温上昇『1.5°C』と言う現実を前に私たちがそれをどのように受け止め、どのような姿勢で歩んでいけるのかを考えてみたい」というわけです。世界の平均気温が1.5°Cを超えて上昇することが確実視され、今後をどのように考えていけば良いのかと不安に満たされる気持ちは誰もが持つことだと思います。興味深く感じてここに要旨を紹介して見たいと思います。

### 日本の記録的猛暑と世界の温暖化

○2025年の日本の夏は記録的な猛暑。日本の最高温は観測史上の最高気温を大幅に更新41.8°Cであった。

○地球は後戻りできない転換点を超えて加速度的上昇の段階に入ったのかとの質問を何度も受けた。しかし、この夏の日本の暑さは地球全体の温暖化の加速を直接示してはいない。この夏の日本の暑さは、太平洋高気圧とチベット高気圧

が日本に張り出し、偏西風が北偏するという天候パターンが大きく影響した。さらに、日本周辺の海面水温の高さが重なった。

### 「1.5°C」を超えることの意味

○長期的な地球温暖化は確実に進行を続けている。人間活動による世界平均気温は産業革命以前を基準にすると既に1.36°C上昇しており(自然変動の上振れを含めると一時的に1.5°Cを超えている)、現在の上昇速度から見て2030年頃には1.5°Cを突破する見通しである。年間約400億トンの二酸化炭素排出を数年で急減させるのは不可能で、この見通しが大きく変わることはない。

○ここで確認しておきたいのは「1.5°C」という目標の意味だが、この数字には「原因に責任がないにもかかわらず深刻な被害を受ける脆弱な人々や将来世代を見捨てないという、国際社会の決意が込められて」いる。しかし、「1.5°Cを超えることで、氷床崩壊などのティッピングポイントを超える可能性も高くなり」「その被害を最初に、深刻な形で受けるのもやはり弱い立場の人々」である。

○「1.5°C」を受け入れることで「海面上昇や高潮や干ばつによって、世界各地で水や食料を失い、住処を追われる人々が現実に存在」することになる。「私たちはその人々に思いを馳せ、現実を受け入れつつも『決して受け入れてはならない』と強く心に刻む必要がある。そして一刻も早い事態の改善のために、脱炭素化を加速させる努力を続けるしかない」

### ポピュリズムの時代の気候政策

○「パリ協定は、世界の共通の脅威である気候変動に対して国際協調によって立ち向かうというビジョンへの合意であった。」しかし「トランプ政権下の米国がその典型」であるように「ナショナリストや右派ポピュリストはしば

しば国際協調を拒み、科学的認識さえねじ曲げ」る。(注；ポピュリズムとは、大衆の不安、願望、怒りに依拠しこれに直接的に働きかけて支持を拡大する主義のこと)世界でこのような勢力がさらに台頭すれば「国際協調の枠組みは脆弱化し、人類の希望はさらに遠のく」ことになる。

○その中で「ポスト・ポピュリズム」と呼ばれる「ポピュリズム的な要素を持ちながら現実的な政策を進めるイタリア・メローニ政権の政策が希望のひとつ」だ。「移民には強行」で「国益重視の政権」でも、「営農型太陽光発電を進めるなど気候変動対策では実務的な一面を示して」「現実には脱炭素を避けられないと判断しうることを示して」いる。

○「米国の将来も重要」だ。「次の大統領選挙の結果が国際協調の行方を大きく左右する」ので希望を託せるのは若い世代で、「共和党支持層の若者の中にも気候変動対策を支持する声が広がっていると聞」く。「米国を再びパリ協定に引き戻す力になるかも知れ」ない。

#### エネルギー・システムの転換点

○この流れを牽引している中国では「国内で再エネと電気自動車を猛烈に普及させ、エネルギー需要が増え続けているにもかかわらず、2024年から二酸化炭素排出量は減少に転じ」「安価な太陽光パネルや蓄電池を世界に供給し、アフリカなどでの普及を後押し」している。「中国依存の高まりは経済安全保障の懸念を呼」ぶが、「市場と技術が生み出す変化の力は、政治の対立を超えて確実に進んでいる」。

#### 国益と人権の共存

○今後はリベラル、保守など政権の形にかかわらず、「国益の追求として気候政策を位置付ける」選択が重要な意味を持つ時代になる。

○日本では「再生可能エネルギーの拡大は、化石燃料の輸入を減らすことで貿易収支を改善し、エネルギー自立性を高め」「営農型太陽光発電は農家の収入を安定化させ、酷暑下の作業環境を改善し、食料安全保障につながる。「国益の観点からも」「脱炭素は合理的な道」である。

○しかし「国益だけで気候政策が進む」のは不安で「その過程で様々な形で権利を侵害される人達に目配りし、制度改善を求めるることはリベラル勢力の重要な役割になる」。国益と人権のそれぞれのナラティブ、「この二つを対立させるのではなく補完的に共存させることができ、日本国内でも世界においても、立場の違いを超えて脱炭素化のビジョンを維持する戦略の一つになる」と思」う。

「私たち」が無力でなくなるとき

○「世界が本当に脱炭素化に進むかどうか」は「自分ひとりではほとんど無力で」「運を天に任せているような気持ち」だが「同じ側に立つ人達が増えることによって、『私たち』は無力でなくなると信じて」いる。

○「『1.5°C』をこえる時代は避けられません。筆者は絶望せずにその時を迎え、そしてその先も、前へ進もうとする人々とともに歩んでいきたいと思います。」

(つづく)



## 皆さんこんにちは！アニヨンハセヨ！

今回は、韓国の話です。居住福祉学会の3か国による国際会議が韓国の大邱(テグ)市及び釜山(プサン)市で、11月6日から9日まで開かれました。参加の呼びかけが9月の初めにありました。そこでその時、まだ行ったことのない大邱市のこと調べてみました。

アジアンニュース№36  
(ベトナム中心) TN

写真は、白黒が、下記の「敵産家屋」からで、カラーは、Google からのものです。

最初に出会ったのが、「**大邱の敵産家屋 地域コミュニティと市民運動:松井理恵著**」という本でした。2024年の3月が初版という新しいものでした。「敵産家屋」という言葉は、初めて目にするもので、これが旅の始まりでした。

大邱駅は古くからありましたが、最近では、東大邱駅のほうが繁華性があるようで、また、新開地でもあります。「敵産家屋」、つまり旧日本家屋が多く残されてるのは、大邱駅そばの北城路(プクセオンロ)沿いです。戦後は、日本家屋をそのまま使用しての工芸の道具街だったようです。今も名残があるようです。



北城路。敷石により城壁跡であることが示されている①



李陸史文学館。外壁が鉄板。新たな解釈による改修④



←  
大邱駅  
→  
東大邱駅



近代歴史館→



従軍慰安婦歴史館②

→  
近代歴史館の碑文



居住福祉学会の最初の会議場は、大邱市でしたが、あとで釜山市にも寄りながらの視察場所が、甘川(カムチエオン)文化村でした。そこまで行くのならば、ついでに光州(クワンジュ)市にも行ってみたらどうかと算段しました。韓国映画の「タクシー運転手」で見た光州事変にも体験したいと思いました。つまり。三都市訪問です。

残念ながら、結論的には、いろいろ調べましたが、今回の韓国訪問は断念したところです。



→光州市 ↓

甘川文化村↑



写真奥に見える建物が旧道庁、その手前が民主広場、大きな噴水台と時計台が見える



5.18民主化運動に関連する場所には、写真右側に写る円形の史跡碑が置かれている



錦南路(クムナムロ)の大通り脇にある光州YMCA。光州の民主化運動では市民軍指導者たちが集まつた



次に出会ったのが、「慶州(キョンジュ)は母の呼び声\_わが原郷:森崎和江著」でした。先の松井さんの本の「補章\_植民地朝鮮の大邱を読み継ぐ」の中で紹介されている。「～森崎和江は1927年、当時日本の植民地統治下にあった大邱(たいきゅう)で生まれた。1944年福岡県立女子専門学校を受験するために、家族と離れ単独で日本にわたる。そして1945年、福岡で敗戦を迎えた。久留米市に移った森崎は1949年に丸山豊が主宰する詩誌「母音」を知り、翌年から同人として発表を続けた。1958年、生活と思索の場を筑豊に移した森崎は、谷川雁や上野英信らと文化運動誌「サークル村」を創刊した。翌年には女性交流誌「無名通信」を創刊する。当時、石炭から石油へとい

うエネルギー転換が国として推進され、産炭地筑豊の労働と生活は炭鉱合理化の圧力にさらされていた。～」ここでは森崎の著書の書き出しだけを紹介しておく。「～朝鮮について語ることは重たい。私は植民地であった頃の朝鮮慶尚北道大邱(たいきゅう)府三笠町で生まれた。生後17年間、朝鮮で暮らした。大邱(たいきゅう)。慶州(けいしゅう)。金泉(きんせん)。～」→校洞市場(キヨドンシジャン)



平和を願う無料映画会 上映とお話

# ラーゲリより愛を込めて

「生きる希望を捨ててはいけません。帰国（ダモイ）の日は必ずやって来ます。」

1945年シベリア収容所（ラーゲリ）において、仲間を励まし続けた山本幡男（はたお）とその仲間の奇跡の実話です。原作は辺見じゅん『収容所（ラーゲリ）から来た遺書』。主演は二宮和也。上映後は、実際に遺書を受け取った次男・厚生さんのお話があります。



©2022 『ラーゲリより愛を込めて』製作委員会©1989 清水香子

2月14日（土）13時30分～16時30分（開場13時）

勤労福祉会館ホール(西荻地域区民センター)杉並区桃井4-3-2

■申込方法 はがき・メール・申込フォーム

いずれかの方法で住所・氏名・電話番号を記入の上、お申し込みください。

2名以上の参加は全員の氏名を明記ください(先着250名)。託児あり要予約。

■申込先 〒166-0002 杉並区高円寺北2-24-5 杉並女性団体連絡会

メール: chietoryu@gmail.com 問合せ: 03-3310-0451



▲申込フォーム

主催: 杉並女性団体連絡会 共催: 杉並区

# 映画 「ラーゲリより愛を込めて」

監督 濑々敬久 2022年製作

出演 二宮和也 北川景子 松坂桃李 中島健人 寺尾聰 桐谷健太 安田顕 ほか

原作 『収容所（ラーゲリ）から来た遺書』文藝春秋より出版

作者は辺見じゅん（父は角川書店創業者、角川源義、弟は角川春樹）。

大宅壯一ノンフィクション賞受賞



左：山本家の家族写真(1941年)

右：厚生さんとヒカルさん

## ■ お話：山本厚生さん（主人公、山本幡男の次男）

父・山本幡男の強い信念を語り継ぐため、「未来への伝言」と題する講演を  
ライフワークとして行っている。『収容所（ラーゲリ）から来た遺書』という  
作品は、厚生の妻ヒカルが、義母モジミに投稿を勧めたことがきっかけで誕生  
した。幡男の遺書は、ノート 15 ページ、4500 字に及び、「本文」「お母さ  
ま！」「妻よ！」「子供等へ」の4通からなっている。



●会場：勤労福社会館ホール（西荻地域区民センター）

●住所：杉並区桃井4-3-2

●交通アクセス：

①JR 中央線「西荻窪駅」（北口）徒歩 15 分

②JR 中央線「西荻窪駅」（北口）関東バス 3・4 番乗車、「桃井四丁目」下車徒歩 1 分

③JR 中央線、丸ノ内線「荻窪駅」（北口）関東バス 0 番乗車、「桃井四丁目」下車徒歩 1 分

④西武新宿線「井荻駅」（南口）関東バス 1 番「西荻窪駅行き」乗車、「桃井四丁目」下車徒歩 1 分



住む人・使う人の立場で、  
住まいづくり、まちづくりを  
すすめています。

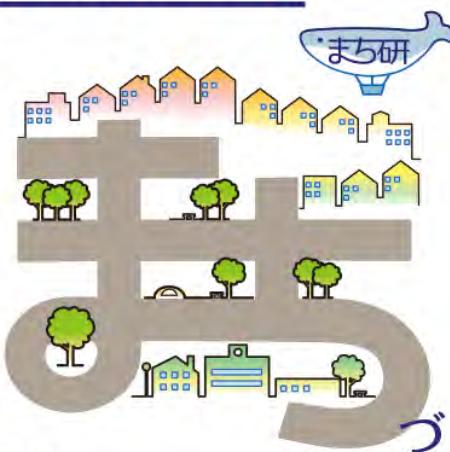


共同建替え「アリシア鳩ヶ谷」

〒124-0001  
東京都葛飾区小菅4-22-15  
TEL : 03-3601-6841  
FAX : 03-3601-6944  
E-mail : zo-3@jade.dti.ne.jp  
<http://www.zo-3.info>

株式会社 象地域設計

住み続けられる



株式会社  
まちづくり研究所

〒150-0013  
東京都渋谷区恵比寿 1-13-6 第二伊藤ビル 503  
TEL : 03-5423-3470 FAX : 03-5423-3479

#### 新建築家技術者集団 憲章

建築とまちづくりにたずさわる私たちは、国土を荒廃から守り、かつ環境破壊を許さず、人びとのねがう豊かな生活環境と高い文化を創造する目的をもつ。

私たちはこのことを認識し、行動するための目標をかげ、ここに憲章を定める。

- 1 建築とまちづくりを、社会とのつながりの中でとらえよう。
- 2 地域に根ざした建築とまちづくりを、住む人使う人と協同してすすめよう。
- 3 建築とまちづくりの優れた伝統を継承し、理論や技術の発展と創造につとめよう。
- 4 人びとに支持される建築とまちづくりの活動をすすめ、専門性を確立しよう。
- 5 建築とまちづくりに関連する国内外の広い分野の人びとの交流をはかり、連帯を強めよう。
- 6 建築とまちづくり、生活と文化、自由のために平和を守ろう。

WHY?

え?

広告主募集中です!

# 新協建設工業株式会社

## 平和であればこそ建築はよろこび

本社 台東区台東2-25-10  
東東京支店 江戸川区篠崎町3-1-3  
台東支店 (台東) 台東区台東2-25-10  
西東京支店 (多摩) 日野市神明4-22-13  
大阪支店 堺市寺地町東4-2-11  
石川支店 金沢市法光寺町207-4  
広島支店 広島市安佐南区相田6-1-7

TEL 03-3836-2011 FAX 03-3837-8450  
TEL 03-3678-7471 FAX 03-3678-7472  
TEL 03-3836-2017 FAX 03-3835-7380  
TEL 042-584-7508 FAX 042-584-7581  
TEL 072-229-2873 FAX 072-229-2874  
TEL 076-257-2535 FAX 076-257-2570  
TEL 082-872-1727 FAX 082-872-1728